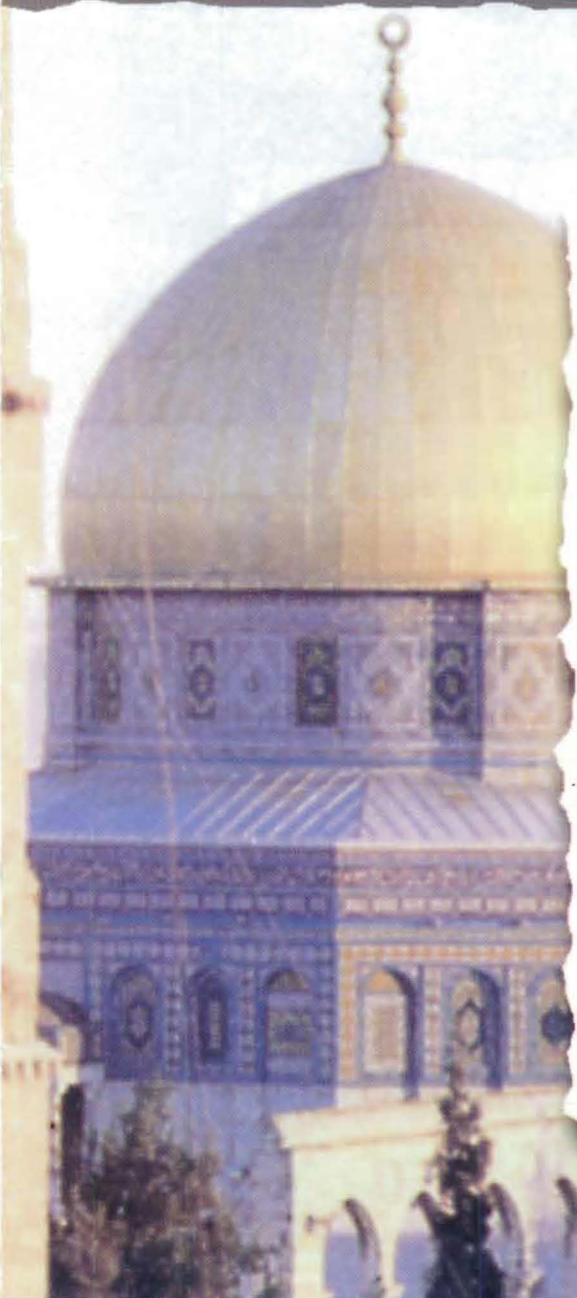
慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。
万有の主、アッラーにこそ凡ての称讃あれ、
慈悲あまねく慈愛深き御方、
最後の審きの日の主宰者に。
私達はあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う。
私達を正しい道に導きたまえ、
あなたが御恵みを下された人々の道に、あなたの怒りを受けし者、また
踏み迷える人々の道ではなく

(AL FATIHA.QURÁN)

المركز الإسلامي في اليابان

イスラームと言って思い出されるのは何でしょう?4人妻、黒づくめの女性、1ヶ月にも渡る断食、砂漠で平伏すイスラーム教徒?しかし例えばアメリカではイスラームがキリスト教に次ぐ第二の宗教であることを、断食月には家族が集い毎日が大晦日や元旦のような暖かな賑わいに包まれるのを知っていますか?カラフルな民族衣装とそれにマッチしたスカーフでおしゃれしてバイクにまたがって出勤するイスラーム教の女性たちを知っていますか?色々な仏教徒やキリスト教徒がいるように色々なイスラーム教徒がいます。しかし日本ではイスラームの一部分だけにスポットライトが当てられクローズアップされがちです。では本当はイスラームとは一体どんなものなのでしょう?

イスラーム教と仏教の関係は?

イスラームと言えば異邦の教えと取られがちですが、仏教とイスラム教の間には多くの共通する部分があります。例えばこういう話があります。

ある大悪人がいました。暴力、盗み、人殺しと、悪の限りを尽くしていました。ある暑さ厳しい日、彼の元へ歩いてきた老いぼれ犬を見て、彼は井戸から自分のブーツに水を入れてその犬に飲ませてやりました。彼はこのたった一つの善行の為に天国へ行きました。

これはイスラームの話です。イスラームは動物を殺すことは勿論草木を含むあらゆる無益な殺生を禁じています。なぜならこの世の全ての物は唯一の創造主の創造したものだからです。そして全てのものは、その創造主に帰依し崇拝を続けているのです。またイスラームは嘘や盗みを禁じ、親孝行を奨励しています。けれども大きな相違は、その創造主の存在をはっきり認識するかどうかと言えるでしょう。そこから道徳も発生すると考えるのです。

イスラームでは女性は差別されているのですか?

クルアーンによれば、男性と女性はアッラーの前に平等です。一般に流布している「イスラームは女性を差別し、抑圧している」という考えは、全くの誤解です。イスラームにおいて、女性は独身でも既婚者でも一個の個人であり、自分に対しても、財産や収入に対しても権利を持ちます。結婚後も夫の家系に入らず、夫婦別姓を保つこともできます。夫と妻の役割はお互いに補いあうもので、協力するものです。両性の権利と義務は公正であり、総合的にバランスがとれます。

イスラームにおいては、女性のみならず男性も簡素で、謙虚で、威厳のある服装をするよう求められます。、女性の肉体を露出しない服装は、女性に対する敬意の現れなのです。いくつかのムスリム諸国で、女性に対する扱いが差別的である場合がありますが、それはイスラームの教えではなく、その地方の文化なのです。

預言者ムハンマドはこう言われました。

「信者たちの間で最も信仰が完全な者は、自分の妻に優しく良い態度の者である」

イスラームでは戦争について どう言っているのですか?

イスラームでは自衛、信仰·財産·生命の自由、人間の尊厳を守る目的、暴力で自分の故郷から追放された者の戦いを許しています。しかしイスラームの戦争には厳しい制限があり、なんでもかんでも戦争してよいわけではありません。よく誤解され、拡大解釈される「ジハード」という言葉は、もともと「努力」という意味であって、「聖戦」ではありません。例えば、個人的なレベルでのジハードとは、己の内にある悪との戦い、社会の公益と福祉のための努力、そして最後の手段として、戦場での戦いです。

ムハンマドが預言者としてメッカで布教を始めた当初、信者たちは多神教徒にひどく迫害を受けましたが、戦争は許されませんでした。しかし信仰の自由を求めてマディーナへ移住した後もイスラームを抹殺しようと迫り来るメッカ軍に対し、こういう啓示が下りました。

「お前たちに戦いを挑む者があれば、アッラーの道のために戦え。だが侵略的であってはならない。本当にアッラーは、侵略者を愛さない」(クルアーン2章190節)

メッカからの侵略にうち勝って最後にメッカを征服したムハンマドは、自分たちを迫害し続けたメッカの人々を許しました。

イスラームは、どのように人間の権利と平等を保証するのですか

クルアーンは、思想の自由を命じています。

「宗教には強制があってはならない。正に正しい道は迷誤から明らかに（分別）されている。それで邪神を退けてアッラーを信仰する者は、決して壊れることのない、堅固な取っ手を握った者である。アッラーは全聴にして全知であられる」（クルアーン2章256節）

ムスリム社会において、ムスリムであろうとなかろうと全ての市民の生命、尊厳、財産は神聖なものとみなされています。イスラーム以前のアラブ世界から人種差別と性差別をなくしたのはイスラームのお陰なのです。なぜならクルアーンはこう語っているからです。

「人びとよ、われは一人の男と一人の女からお前たちを創り、種族と部族に分けた。これはお前たちを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、お前たちの中最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通暁なされる」（クルアーン49章13節）

イスラームの拡張は、世界にどのような影響を与えたのですか

預言者ムハンマド（彼に平安あれ）の死後数十年のうちに、ムスリムの支配下にある地域はアジア、アフリカ、ヨーロッパの3大陸に上りました。イスラームが速やかに広がった理由の一つとして、その教義の簡明さがあります。イスラームは崇拝に値する唯一の創造者のみに対する信仰へ呼びます。イスラームはまた、くり返し、人間が自分の知性や観察を用いることを教えます。

ムスリムの文明化が進むにつれ、それはエジプト、ペルシャ、ギリシャなど古代の人々の遺産を吸収しました。東洋と西洋の思考、新旧の考えの融合は、勉学の様々な分野に偉大な進歩をもたらしました。イスラームの思想に基づく学者たちは、人文科学、建築、天文学、地理学、歴史学、言語学、文学、医学、数学、物理学などを発展させました。代数、アラビア数字、ゼロの概念など多くの非常に重要なシステムは、ムスリムの学者を通じ、中世のヨーロッパに伝えられました。ヨーロッパの大航海を可能にするアストロラーベ、四分議、優れた航海図を含む、洗練された機器が開発されました。

イスラームとはなんですか

イスラームは単なる宗教ではありません。この世を創造した超越した唯一の存在が、人間が最も自然で平安な生き方ができるように道を示しました。どんな人間にも恵みを与えている慈悲深い存在。それをアラビア語でアッラーと言います。イスラームとはこの存在の意志に即した、言うなれば最も自然な道のことです。アッラーに帰依するということは、もっともあるがままの人間の本性に従うということなのです。

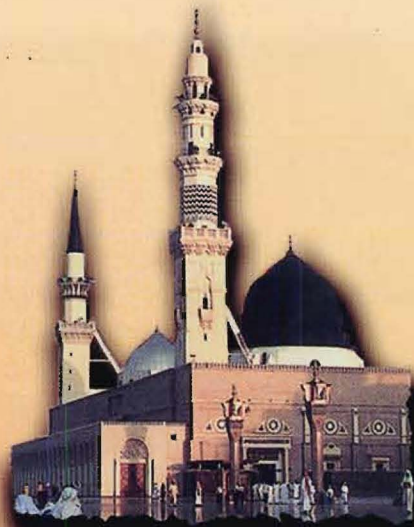
PHOTO by APE SO

ムスリムは なにを信じているのですか

ムスリムは、唯一で、他のなにものにも比べようもなく、慈悲深い創造者であり、宇宙の養護者であるアッラーのみを信じています。それから、アッラーによって創造された天使たち、人類にアッラーの啓示を伝えた預言者たち、各人それぞれの行いに対する清算が行われる審判の日、良いことも悪いことも、運命は全能のアッラーから来ること、死後の生命を信じています。ムスリムは、アッラーがかれの預言者や使者をあらゆる人々に送ったこと、イスラームがアッラーの人類に対する最後のメッセージであり、不変のメッセージの確証であり、以前に来た全てのメッセージの要約であり、大天使ジブリールを通じて最後の預言者ムハンマド（彼に平安あれ）に啓示されたものであることを信じています。

ムスリムとは 誰ですか

ムスリムとは、宇宙の創造者アッラーを意識して、かれに感謝し、アッラーの使者ムハンマドに示されたまっすぐな道に沿って生きてゆこうとする人々のことです。その中にはサラリーマンもいますし、農民もいます。イスラームは「砂漠の遊牧民の宗教」ではありません。

地球上のあらゆる人種、国籍、文化の10億を越す人々がムスリムです。インドネシアの田園から、アフリカの心臓部に広がる砂漠までの地域。ニューヨークの摩天楼から、アラビア遊牧民のテントまで。

ムハンマド、預言者たちの封印

ムハンマドは西暦570年に現在のサウジアラビアの都市メッカに生まれました。成長するにつれ、ムハンマドはその正直さ、気前の良さ、誠実さなどで知られるようになり、「アル・アミーン（誠実者）」の称号で呼ばれるようになりました。

ムハンマドは正義感が強く、彼の社会の退廃をずっと憂えていました。40歳の時、瞑想にこもっていたムハンマドは、アッラーからの最初の啓示を大天使ジブリールを通じて受け取りました。この啓示は、23年間に渡って続き、クルアーンとして完成しました。

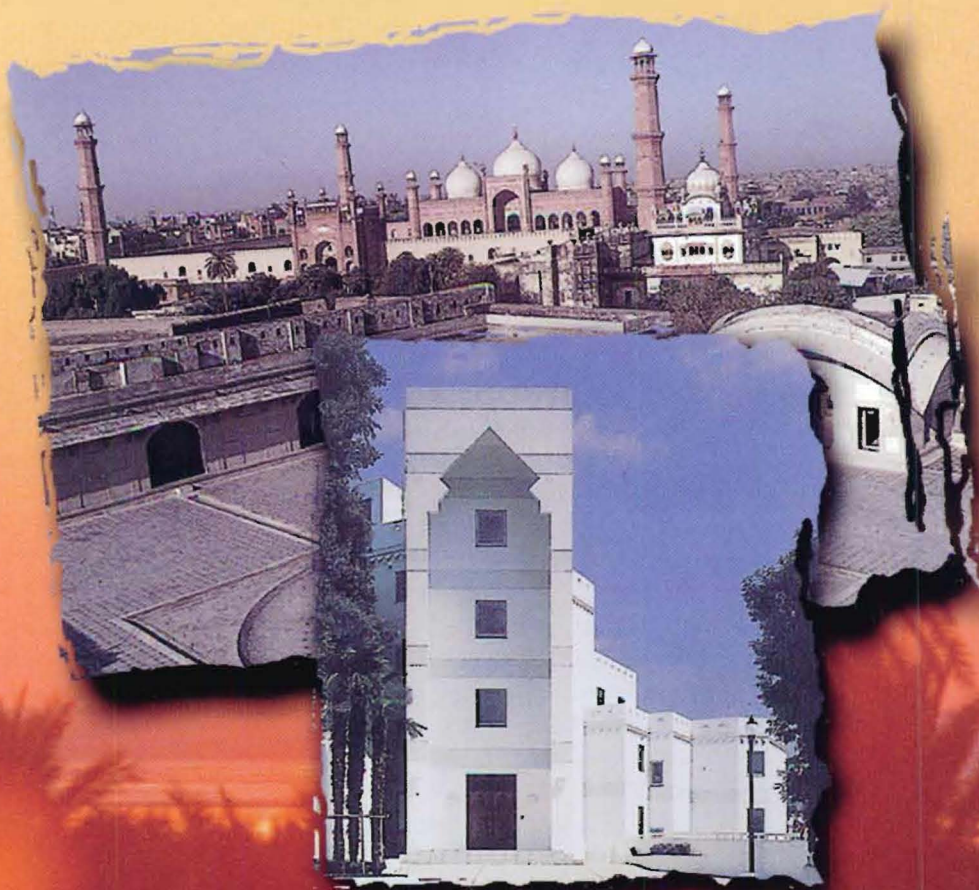
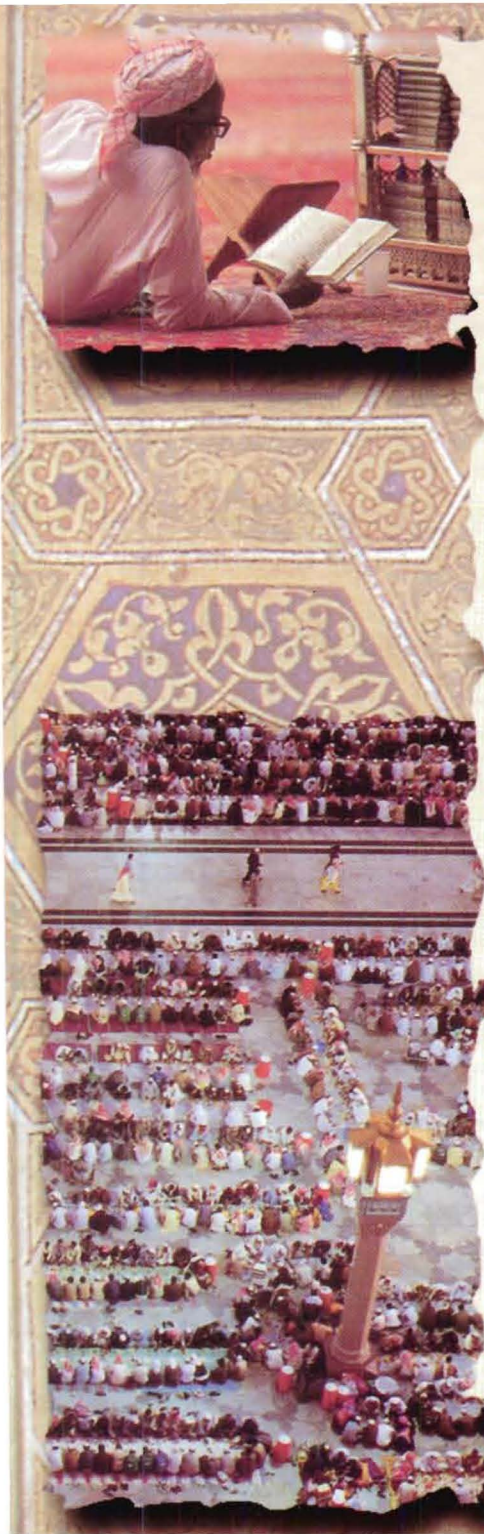
ムハンマドはジブリールから聞いた言葉を唱え始め、アッラーが彼に啓示した真理を説き始めました。メッカの人々は、無知の道に侵されており、ムハンマドと彼に従う小さな集団を、あらゆる手段で妨害しました。これら初期のムスリムたちはひどい迫害を受けました。

622年、アッラーはムスリム共同体に移住の命令を与えました。この出来事はヒジュラ（聖遷）といい、これによってムスリムたちはメッカを去り、420キロ北の町マディーナに移住しました。これがイスラーム暦の元年となりました。

マディーナはムハンマドとムスリムたちに避難所を提供しました。それによってイスラームは成長しました。数年後、預言者とその信奉者たちはメッカに帰りました。そこで彼らは迫害した人々を許し、決定的にイスラームをうち立てました。預言者が63歳で亡くなる前に、アラビア半島の大部分はムスリムとなり、彼の死後1世紀以内に、イスラームは西はスペイン、東は中国にまで広がりました。

クルアーンとはなんですか

クルアーンは大天使ジブリールを通じ預言者ムハンマドに啓示されたアッラーの言葉の完全な記録です。クルアーンは全てのムスリムの信仰と実践の源です。それは私たち人間に関するあらゆることを扱います。知恵、教義、礼拝、法。けれどもその基本となる主題は、アッラーとその創造物との関係です。同時にそれは公正な社会、正しい人間のふるまい、公正な経済原則に対するガイドラインを提示します。

クルアーンとは別に、第二の導きとして、ムスリムは預言者ムハンマド（彼に平安あれ）の人生も参考にします。スンナ（預言者の実践とお手本）に対する信仰はイスラームの信仰の一部です。

イスラームの五柱

ムスリムの生活には五つの実践があります。神の唯一性に対する信仰とムハンマドが最後の預言者であるということに対する信仰。毎日の規則にかなった礼拝。貧しい者への施し。断食による自己を清める行為。肉体的･金銭的に可能な者がメッカへ巡礼すること。

シャハーダ(信仰告白)

「アッラーの他に崇拝に値するものはなく、ムハンマドはアッラーの使者である」この信仰の宣言はシャハーダと呼ばれます。この単純な言葉が、あらゆる信仰の宣言です。この宣言の意味は、人生の目的は、ただアッラーに従うことだという信仰です。そしてこれは最後の預言者ムハンマド(彼に平安あれ)の教えと実践を通して得られます。

サラート(礼拝)

サラートとは毎日5回行われる礼拝のことです。そしてそれは礼拝者とアッラーとの直接のつながりです。これらの5回の決まった礼拝は、クルアーンの章を含み、啓示の言葉であるアラビア語で行われます。けれども個人的な祈りは、自国の言葉でいつでも行うことができます。

ザカート(喜捨)

イスラームの重要な原則の一つは、あらゆるものはアッラーに属しており、人間の持っている財産は信託だということです。ザカートという言葉の意味は、「清め」と「成長」の両方の意味があります。貧者のために財産のいくらかの割合を取っておくことは、私たちの財産を清め、樹木の剪定のように、さらなる財産の成長をもたらすのです。

サウム(断食)

毎年、ラマダーン月には、全ての健康なムスリムは暁から日没まで断食します。断食の最中には、飲食はもちろん他人のうわさ話やけんか、性交なども慎みます。

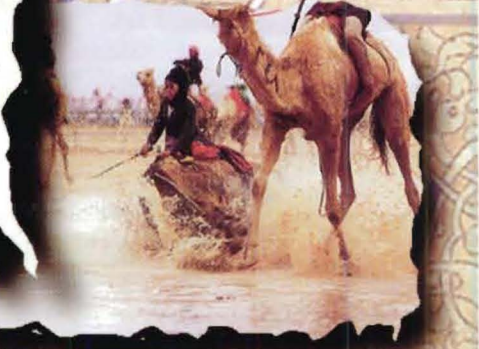
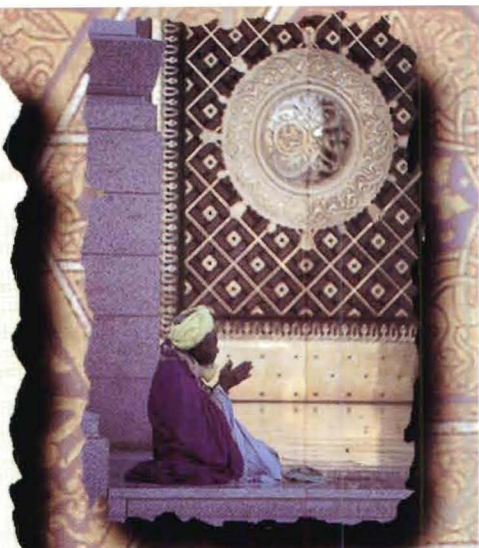
断食は健康にもいいのですが、それは実際、自己浄化と克己心の訓練のために行われます。現世の快適さをたとえ一時でも絶つことによって、人は自分の人生においてアッラーの存在意識に集中するのです。

ハッジ(巡礼)

メッカへの巡礼ーハッジは、肉体的および経済的に可能な者に対してのみ、義務です。けれども、毎年地球上のあらゆる地域から200万を越す人々が、異なる民族同士が出会うこの集まりにやって来ます。

例年のハッジはイスラーム暦の12月に始まります。巡礼者たちは特別の装いをします。それは縫い目のない二枚の布で、これによって階級や文化の違いはなくなってしまい、全ての人々がアッラーの前で等しく立つのです。

ハッジの儀式は、預言者イブラーヒーム(アブラハム)にその源泉を見ることができます。例えばカアバ神殿の周りを7周したり、イブラーヒームの妻ハージャルが水を求めて行ったようにサファーとマルワの丘の間を7回行き来したりします。巡礼者たちは後にアラファートの平野に集い、ともにアッラーの許しを求めて祈ります。その姿はしばしば審判の日の光景に例えられます。

ハッジの有終はイードル・アドハーの祭りによって飾られます。この祭りには、世界中のムスリムが晴れ着で祝います。これと断食開けの祭りであるイードル・フィトルの二つが、イスラームの祭りです。

ムスリムの家族生活と社会生活

家族はイスラーム共同体の基礎です。確固とした家族の平和や安寧はとても大事にされ、その中に暮らす人々の精神的な成長のために不可欠だと教えられています。調和のある社会の秩序は、家族の存在によって作られると考えられています。子供は宝であると同時にきちんとしつけられます。

イスラームの教えでは両親は非常に尊敬され、親孝行は名誉ある祝福された行為だと考えられています。イスラームでは、たとえ両親が違う信仰を持っていたとしても、アッラーの命令に反しない限り従い、尊敬するよう教えています。

母親は特に尊敬されています。クルアーンでは、母親は妊娠・出産・育児の各場面で苦しむので、特に優しく丁寧に扱われるべきだと教えています。

クルアーンには次のように述べられています。

「われは、両親への態度を人間に指示した。人間の母親は,苦労にやつれてその(子)を胎内で養い、更に離乳まで2年かかる。「われとあなたの父母に感謝しなさい。われに(最後の)帰り所はあるのである。」(クルアーン31章14節)

ムスリムの結婚は、神聖なる行為であると同時に契約です。そこでは両者が正当な条件を含めることができます。その結果、離婚は一般的ではありませんが、最後の手段として許されています。結婚に伴う習慣は、国によって様々です。

لا إله إلا الله محمد رسول الله
LAILAHA ILLAALLAH MUHAMMAD RASOOL ALLAH
(ラー イラーハ イッラッ=ラーフ、ムハマンド ラスール アッラー)
アッラーの他に崇拝する神はなく、ムハンマドはアッラーの使者である。
誰でもこのことばを繰り返す者は、心が啓発され、すべての問題が解き放されます。

Way to Islamic Center
For Shinjuku
至新宿
首都高速
笹塚
Sasazuka Station
京王線
Keio line
代田橋
Daitabashi Station
大原町バス停
井の頭通り
北沢中
Inokashira Road
代々木上原
Yoyogi Uehara Station
至新宿
For Shinjuku
至原宿
For Harajuku
東北沢
Higashi Kitazawa Station
小田急線
Odakyu line
環状7号線
Kannana Road
N
イスラミック センター・ジャパン
ISLAMIC CENTER JAPAN
新代田
Shin Daita Station
井の頭線
Inokashira line
下北沢
Shimo kitazawa Station
至渋谷
For Shibuya
イスラームに関してさらに情報をお求めの方は、イスラミックセンター・ジャパンにご連絡下さい。
イスラミックセンター・ジャパン
〒156-0041 東京都世田谷区大原1−16−11
1-16-11 Ohara,Setagaya-ku,Tokyo 156-0041
電話:03-3460-6169 ファックス:03-3460-6105
ホームページ:http://islamcenter.or.jp
電子メール:islamcjp@islamcenter.or.jp
www.islamicbulletin.com